農産物の収穫に伴って生じるバイオマス燃料に関する持続可能性（合法性）確保へ向けた取組について

株式会社釧路火力発電所
代表取締役 花生 洋平

当社はパームカーネルシェル（以下、PKS）を燃料として利用したバイオマス混焼発電所の事業化を計画しております。これに伴いまして、資源エネルギー庁策定事業計画ガイドライン（バイオマス発電）2020年4月改定に基づき、以下に自主的取組について開示致します。

① 持続可能性（合法性）の確保に関する取組

- イ) 燃料輸入商社及び燃料サプライヤーに対し流通経路・フローの提出を求め、発生地点以降の流通経路を把握してまいります。
- ロ) 燃料輸入商社乃至は燃料サプライヤーに対し認証取得済み工場（認証工場）からの調達を推奨してまいります。
- ハ) 燃料輸入商社に対し現地調査（主要搾油工場の確認を含む）を行い、持続可能性（合法性）の確保について適切な配慮がなされているか確認に努めます。

② 発生地点に関する情報収集への取組

- イ) PKS の発生地点であるパーム油搾油工場の情報について、燃料調達の検討に並行して当該燃料輸入商社及び現地燃料サプライヤーを通じて確認してまいります。
- ロ) PKS の発生地点であるパーム油搾油工場の情報について、現時点で判明しております状況は以下の通りです。下記以外からの調達はなく、追加の情報に関しては取得次第速やかに公表するよう努めます。

国	調達先工場の認証取得状況
マレーシア	現在確認中です。
インドネシア	現在確認中です。

以上